



日本史 B 問題

はじめに、これを読むこと。

(注意事項)

1. この問題用紙は、12 ページある。
2. これは、日本史 B の問題である。解答用紙が出願の時に選択した科目のものであるかどうかを確認のうえ、解答すること。
3. 解答用紙の所定の欄に、必ず氏名を記入すること。
4. 解答用紙には受験番号が印刷されているので、受験票と照合して受験番号が正しいかどうか確認すること。
5. 解答はすべて「解答用紙」の解答欄に記入またはマークすること。解答欄以外のところには何も記入しないこと。
6. 解答は、必ず鉛筆又はシャープペンシル(いずれも HB・黒)で記入なさい。
7. 訂正は消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないこと。
8. 解答用紙は、絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。
9. 文字は一点一画まで正確に書くこと。
10. 解答用紙は持ちかえらないこと。
11. この問題用紙は必ず持ちかえること。
12. 試験時間は 60 分である。
13. マークの記入例

良い例	悪い例
	

〔 I 〕 以下の文章は、前近代の日本と朝鮮半島の関係について記したものである。文章内における a～e の【 】に入る最も適切な語句を①～⑤の中から選び、マークしなさい。また、

1

 ～

5

 の中に入る最も適切な語句を記しなさい。

日本と朝鮮の関係はきわめて古く、1世紀に編纂された「漢書地理志」には、紀元前1世紀に倭人が漢の勢力下にあった a【① 帯方郡 ② 楽浪郡 ③ 玄菟郡 ④ 臨屯郡 ⑤ 真番郡】に定期的に使いを送っていたとある。5世紀になると朝鮮半島では、高句麗・百済・新羅の3国の対立が続いたが、このうち日本はとくに百済との交流を深めた。百済からは五経博士や易・暦・医の諸博士が渡来し、仏教の公伝も百済を介してのものだった。しかし、660年、その百済も唐と新羅によって滅ぼされてしまう。これに衝撃をうけた日本の朝廷は、百済復興のために大軍を派遣するも、白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗する。以後、日本では唐・新羅の来襲に備えて九州・瀬戸内の軍備を固め、内政の充実を図ることになる。667年の b【① 飛鳥浄御原宮 ② 近江大津宮 ③ 難波長柄豊碕宮 ④ 筑紫朝倉宮 ⑤ 近江紫香楽宮】への政治拠点の移動も、このときの政策転換によってなされたものである。

その後、新羅とは何度か使節の交換があったが、日本が新羅を従属国として扱おうとしたため、両国の関係は再び悪化する。一方、7世紀末、中国東北部におこった新興国

1

 は、唐・新羅に対抗するため、727年に日本に通交を求め、しばしば使節の交換があった。

10世紀に入ると、大陸で強国の唐が滅亡したことで、東アジアは動乱の時代に突入する。中国は五代十国の時代を経て、960年に北宋が成立する。

1

 は、926年に遼(契丹)によって滅ぼされ、朝鮮では935年に新羅が高麗によって滅ぼされることになる。

13世紀、遼と北宋は金によって滅ぼされるが、やがて、その金も1234年にはモンゴルによって滅ぼされる。さらにモンゴルは国号を元と改め、高麗を服属させるが、高麗の常備軍精鋭部隊である

2

 は1273年まで江華島や済州島で抵抗を続けた。1274年と1281年の二度、元は日本に襲来(文永・弘安の役)

し、高麗もそれに軍事動員させられるが、このときの [2] の抵抗が元の日本侵出を遅らせ、元・高麗軍の士気を鈍らせることとなった。

元の襲来後も東アジアでは僧侶や商人の往来は活発であり、北九州や瀬戸内の住人たちも船団を組んで貿易に従事し、ときには倭寇となって東シナ海を荒らしまわった。1392年、足利義満が南北朝を統一したのと同じ年、倭寇討伐で名声をえた李成桂が高麗を倒し、朝鮮を建国する。日本と朝鮮との間の貿易は、対馬の宗氏の仲介のもと、14世紀末から約100年間続けられた。朝鮮の三浦(乃而浦・富山浦・塩浦)と漢城には交易の拠点施設として [3] が設けられ、ここに滞在する日本人のことは恒居倭とよばれた。このときの朝鮮からの主要輸入品であったc【① 胡椒 ② 蘇木 ③ 硫黄 ④ 黄金 ⑤ 木綿】は当時の日本国内では栽培されていなかったため、たいへんに重宝された。しかし、1510年、三浦に住む恒居倭たちが朝鮮の統制強化に反発して起こした暴動(三浦の乱)をきっかけに、両国の貿易は衰退していくことになる。

1592年と97年の豊臣秀吉による朝鮮出兵(文禄・慶長の役)は、またも両国の関係に亀裂を入れるものとなった。秀吉は慶長の役で出兵した大名たちに命じて、討ちとった朝鮮人の鼻を戦功品として提出することを命じ、それを京都に建設した寺院である [4] のまえに埋葬した。[4] は豊臣政権にとって象徴的な意味をもつ寺で、刀狩令のなかに登場する「大仏」が安置されていた寺としても著名である。このとき築かれた塚は、後に「耳塚」とよばれるようになり、現在も京都市東山区に残されている。

秀吉の死後、日本と朝鮮の講和は対馬藩主の宗氏の努力により実現され、1607年には江戸幕府のもとd【① 冊封使 ② 追捕使 ③ 謝恩使 ④ 通信使 ⑤ 慶賀使】が迎えられ、その後、1811年までの間に合計12回、おおむね将軍が交代するたびに朝鮮使節が来日することになる。また、1609年には [5] 条約が締結され、釜山に設けられた [3] に、年間20隻の船を派遣し、貿易を行うことが認められた。異国のきらびやかな扮装をした朝鮮使節の来日は、当時の一般庶民にも歓迎され、現在でも朝鮮使節が通過した岡山県瀬戸内市には「唐子踊り」、三重県津市には「唐人踊り」など、朝鮮人の姿を模倣した衣装で舞う踊りが伝えられている。

また、ともすると江戸幕府は徳川将軍を「日本国王」と称したり、朝鮮使節の待遇を簡素化するなどして、朝鮮を相対的に低位の国として位置づけようと画策したが、その一方でe【① 雨森芳洲 ② 新井白石 ③ 貝原益軒 ④ 室鳩巢 ⑤ 木下順庵】(1668～1755)のように、善隣外交の立場からこうした動向に反発する人物も存在した。

〔Ⅱ〕 以下の文章は、教育の歴史について述べたものである。文章内におけるA～Eの【】に入る最も適切な語句を①～⑤から選び、マークし、また あ ～ お の中に入る最も適切な語句を記しなさい。

公教育制度の歴史上、大宝律令の「学令」が最古の学制にかかわる記述である。それによれば、国都に式部省所管の大学、地方に あ がおかれた。大学の教科は、『論語』『孝経』など儒教の經典を学ぶ明経道、律令など法律を学ぶ明法道などがあり、官吏養成機関として基本的にはA【① 二 ② 三 ③ 四 ④ 五 ⑤ 六】位以上の官人の子弟や東西史部の子孫に対して入学資格を与えていた。学生は大学を修了し、さらに試験に合格して官人となった。 あ は郡司の子弟を対象としていたが、定員未満の場合に限り、郡司以外の子弟も入学できた。このほかにも典薬寮、陰陽寮、雅楽寮などではそれぞれの教育機関を設け、種々の専門的教育が施されていた。平安時代には権門貴族の子弟に与えられた蔭位の特権により官吏の登用試験が形骸化し、主要官職についても世襲制度が確立していったため、大学への入学者は減少した。これに代わり勃興したのが中国への留学生や貴族などが一族子弟の教育などのために設置した大学別曹である。これには在原行平の設立したB【① 弘文院 ② 文章院 ③ 奨学院 ④ 綜芸種智院 ⑤ 学館院】などがある。

鎌倉時代には公設の諸学校は衰退し、寺院の私塾化や武家の家庭教育など布教や武芸などを通じた私教育が広く普及していったが、やがて武士の間でも典籍蒐集家が現れるようになった。名越文庫、長井文庫などとともに金沢文庫などが著名である。室町時代になると地方にも文化や学問が普及した。関東では上杉憲実が足利学校を再興したが、これを「日本で坂東というところには、たいへん大きな大学があつて、大勢のボンズたちがそれぞれの宗派について学ぶために、そこへ行きます」と書簡において紹介したのは い (1506～52)である。

江戸時代は公的私的双方の教育機関が隆盛となった時代である。綱吉は林羅山が上野忍岡に設けた孔子廟と私塾を湯島に移設し、聖堂学問所として整備した。また諸藩が主に藩士の子弟を教育するために設立した学校を藩校もしくは藩校といった。名古屋のC【① 日新館 ② 明倫館 ③ 時習館 ④ 弘道館 ⑤ 明倫

堂】などが著名である。このような都市部，城下町だけではなく，農村部にも藩士や庶民を対象とした郷学が作られ，学者の私塾なども広く普及していった。町や村では庶民を相手に神職や僧侶などが寺子屋を開き，庶民の教養の高度化を背景にそれぞれの文化が花開いた。

明治政府は1872年に学制を公布し，国民皆学を目標に小学校教育の普及を試みた。ほかにも医師，弁護士など専門的職業人養成のための諸教育機関も整備されていくこととなったが，その目的の一つに近代官僚の養成があったことから学校制度と官僚任用制度の連携はきわめて緊密なものとなった。1887年に定められた「文官試験試補及見習規則」でも奏任・判任官それぞれの行政官僚の登用資格についての無試験任用などが諸高等教育機関卒業生の「特権」とされていた。1891年の判事検事登用試験規則でもその受験資格を明治法律学校など9校の私立法律学校卒業生に与え，さらに帝国大学法科大学卒業生は無試験で司法官試補に任ぜられた。これによって学校教育の履歴(学歴)がひとつの社会的な「資格」として機能する側面をもった。のち任官制度について一部は高等文官試験制度などへの移行が進むことになるが，高等教育機関在学生の特権としてはほかにも一年志願兵制度などに代表される 猶予措置(当初は免除)があり，富裕層の子弟を中心に高等教育機関への進学動機のなかには様々な要素を含んでいたことも事実である。

1886年に森有礼文部大臣のもとでいわゆる学校令が公布され，小学校・中学校・帝国大学などからなる学校制度の体系化が進展した。尋常・高等小学校各4年のうち，尋常小学校3～4年が義務教育とされたが，これはのち， 年には6年間に延長された。また高等小学校卒業(またはこれと同等以上の学力を有するもの)を入学資格とする専門的職業人養成のための学校群を創出するため，1899年には勅令をもってD【① 改正教育 ② 専門学校 ③ 国民学校 ④ 実業学校 ⑤ 教育】令を公布し，日清戦争後急激に発展しつつあった工業，商業等へ多くの有為な人材を供給する政策を展開した。その後20世紀にはいつて高等教育についての整備も進み，1918年の大学令，改正高等学校令により現代に続く教育システムはほぼ完成をみたが，都市スラムにおける不就学児童問題など，制度のひずみなども同時に出現することとなった。大正デモクラシーの影

響のもと、大正初期には信濃教育会や沢柳政太郎、羽仁もと子などが主導した
お運動もおこった。

第二次大戦後の教育改革により、戦前の複線型の学校体系が単線型六・三・三制に改められた。高度経済成長を背景とした「教育熱」によってE【① 1955 ② 1965 ③ 1975 ④ 1985 ⑤ 1995】年には高校進学率が90パーセントを超え、やがて大学の「大衆化」も進行した。

〔Ⅲ〕 以下の文章は、中世から近世初期にかけての政治について記したものである。文章内における(a)～(e)の【 】に入る最も適切な語句を①～⑤から選び、マークしなさい。また、 ～ の中に入る最も適切な語句を記しなさい。

足利尊氏は、1336年、後醍醐天皇が主導した建武政権を倒し、持明院統から光明天皇を擁立した。これにより、60年ほどにわたる南北朝の動乱が幕を開けることになる。この間、地方諸国を統括する守護の権限は大きく拡大した。鎌倉時代から認められていた大犯三カ条に基づく軍事警察権に加え、半済令によって国内の荘園や公領の年貢の半分を徴発する権限が認められるようになる。また、土地争論に関する幕府の判決を強制執行する の権限なども与えられた。こうしたことを背景に守護は各地の支配基盤を固めていったが、守護の力が十分に及ばない地域では、国人と呼ばれる地方在住の武士たちが、自らの領主権を守るために地縁的集団である国人一揆を結成し、守護と対立することもあった。

1392年、南朝の後亀山天皇から北朝の(a)【① 後花園 ② 後村上 ③ 後小松 ④ 後光厳 ⑤ 後円融】天皇(1377～1433)へ神器が譲り渡され、約60年にわたる南北朝の動乱は幕を閉じた。これを主導した足利義満は、動乱期に強大となった外様の有力守護を攻め滅ぼすなどして、幕府支配力の強化につとめ、幕府機構もこの時期に整備された。中央には將軍補佐役の管領を筆頭に、評定衆、政所、侍所などを置いた。侍所の所司は管領に次ぐ要職として有力な守護から任命される慣例があり、その中には、播磨守護で後に將軍足利義教の暗殺に関わり衰退した(b)【① 赤松 ② 一色 ③ 京極 ④ 土岐 ⑤ 山名】氏も含まれていた。

その後しばらく安定した時期を迎えるが、將軍権力の弱体化に伴い、將軍家と有力守護家の双方において家督争いが起こる。幕府の実権争いをしてきた細川勝元と山名持豊がこれに介入したことで対立は激化し、1467年、応仁・文明の乱が始まった。戦火や足軽による悪行は主戦場となった京都を荒廃させ、戦いに疲れた両軍が和睦を結んだのは1477年のことであった。守護在京の原則にのっとり、地方諸国の実質的な統轄を行っていた守護代や有力国人は、戦で消耗する守

護を尻目に領国支配力を高めていくようになる。関白一条兼良の子である (2) (1430～1508)が記した日記『大乘院寺社雑事記』には、南山城で戦いを繰り広げていた畠山政長・義就の両軍勢を山城の国人や土民が結束して退去させた様子が描かれている。

こうした下剋上の中、全国各地で戦国大名が自らの領国を作り上げていった。京都からくだってきたとされる北条早雲(伊勢宗瑞)は、1493年、当時の堀越公方であった足利(c)【① 義澄 ② 茶々丸 ③ 政知 ④ 成氏 ⑤ 義輝】(?～1498)を下して伊豆を奪い、その後小田原城を奪取し勢力を広げた。その子である氏綱や孫である氏康の活躍により、後北条氏は5代に渡ってこの地域を広く治めることになる。このほか、越後一帯を広く治めていた上杉氏、甲斐から信濃にかけて領地を持っていた武田氏、駿河から遠江あたりを治めていた今川氏などが戦国大名として有名である。戦国大名の中には、国人から身をおこしたものも少なくなかった。例えば、安芸を本拠に周防、長門など中国地方10カ国を平定した毛利氏や、1584年に島津氏に敗れるまで肥前を治めていた(d)【① 相良 ② 大友 ③ 長宗我部 ④ 大内 ⑤ 龍造寺】氏などをあげることができる。

戦国大名は、領国の支配のために様々な政策を実施し統治の仕組みを整えていった。例えば、貫高制や寄親・寄子制を通じて領国の軍事制度を整え、軍事行動の組織化を図った。また、領国内の土地や農民に対する支配権を確立するために検地を行うことも多かった。戦国大名の中には基本法となる分国法や家法を定めるものもあった。例えば、『今川仮名目録』は駿河の今川氏親が1526年に制定した33条と今川義元が1553年に追加した21条からなる分国法で、喧嘩両成敗や私婚禁止のほか訴訟に関する規定なども含まれていた。『 (3) 』は、1536年に伊達植宗によって制定された戦国家法の中でも最も条数の多いものであり、その条数は171にも及んだ。

こうした群雄の割拠した戦国時代も次第に統一へと進んでいくことになる。織田信長は各地で有力な戦国大名を退け、大きな権力を手に入れるようになっていった。また、信長は、本願寺11代門主の (4) (1543～92)が1570年に挙兵してからおよそ10年にわたって一向一揆とも戦い、1580年、ついにそれを退けた。信長は、強大な軍事力を整え画期的な戦法を採用するなど武人としても優

れていたが、古い秩序や権力に挑戦し、新しい支配体系を整えるために様々な政策を打ち出すなど政治経済の分野でも多くの才能を発揮した。関所の撤廃を進めて人やモノの往来を促進するとともに、樂市令を発して市の閉鎖性につながるような制度を廃し、商品取引の活性化を図った。近江八幡市共有文書には、(e)【① 1565 ② 1568 ③ 1571 ④ 1574 ⑤ 1577】年6月に安土城下町に出した13条からなる樂市令が残されており、城下町の繁栄のために商人に優遇策を与えようとしていたことがうかがえる。

1582年の (5) の戦いにおいて武田勝頼を滅ぼし、京都から近畿、東海、北陸地方を支配下に置いた信長は、その支配範囲をさらに広げるために中国地方の毛利氏征討に向かったが、道中滞在した京都本能寺にて、家臣の明智光秀に背かれて敗死し、天下布武の印判に込められた夢はあとわずかなところで潰えてしまうこととなった。

〔Ⅳ〕 以下の文章は1930年代を中心とした日本を取り巻く国際情勢について述べたものである。文章内における(A)～(E)の【 】に入る最も適切な語句を①～⑤から選びマークしなさい。また、 ～ に入る最も適切な語句を記しなさい。

1929年10月24日にニューヨーク・ウォール街の証券取引所で株価が突如、大暴落した。この株価暴落の影響は全世界に大恐慌として広がっていった。アメリカはTVA(テネシー川流域開発公社)などの大規模開発事業による公共投資を中心とした 政策をとることで経済危機を克服することを試みた。また、植民地を保有するイギリス、フランスのような列強国は、本国と植民地に関税特恵を与える一方、他国には高い関税を課すことにより自国経済を保護するブロック経済圏を作り上げた。例えばイギリスは(A)【① ロンドン ② オタワ ③ バーミンガム ④ ニューデリー ⑤ シドニー】で英帝国経済会議を開き、イギリスと植民地との間で特恵関税を設定し、ポンドを基軸通貨とするスターリング・ブロックという経済圏を構築した。しかし、植民地を多く持たないドイツ、イタリアは世界大恐慌の影響を強く受けることになった。第一次世界大戦から復興し景気が回復しつつあったドイツでは、大戦での賠償金支払い問題と相まって大恐慌により経済が壊滅的な状況に陥った。

日本では世界大恐慌が起きる以前に、第一次世界大戦終結と関東大震災の影響により長期にわたり景気が低迷していた。1923年に起きた関東大震災による手形の決済問題が景気をさらに悪化させていた。政府は銀行や企業を救済しようとしたが、その対応に手間取ることになる。震災手形の処理をめぐり、 (1866～1949)内閣の片岡直温蔵相が衆議院予算委員会にて失言をし、このことが人々の信用不安をかき立て、銀行の取り付け騒ぎを引き起こす事態となった。これらの影響により台湾銀行が資金不足に陥り、主要取引先である巨大財閥の鈴木商店は倒産、台湾銀行は休業に追い込まれた。

ドイツ、イタリアや日本では、このような状況に対して軍事力により資源のある領土を獲得し「生存圏」を拡張することで解決を図るべきであるという議論も生まれ、ファシズムが台頭することとなった。ドイツではヒトラー率いるナチ党が

政権を握り、1933年には全権委任法を制定して、ヒトラーがドイツの総統となりナチ党による独裁体制が成立した。イタリアではこれより前に1922年にファシスト党を率いたムッソリーニが政権を掌握しており、1935年にエチオピアへ侵攻し併合するに至った。このようなファシズムの風潮はスペインやポルトガルにも影響することになる。当時、左翼勢力を中心とした人民戦線政府による共和制国家であったスペインでは、右翼・保守勢力の (1892～1975) 将軍が人民戦線政府に対して反乱を起こした。ドイツ、イタリアは 将軍率いる反乱軍に支援を行い、これを機にドイツとイタリアが急速に近づき、いわゆる「ベルリン＝ローマ枢軸」が形成されることになった。

ソ連ではレーニンの死後、スターリンのもとで共産党による一党独裁体制が強固なものとなっていた。スターリンは反対派を粛清しながら独裁者としての立場を固め、5か年計画による計画経済政策をとり、大恐慌の影響を受けずに国力を増強させることに成功した。1934年には国際連盟に加入し、国際社会での存在感を高めていった。さらに、1919年にはボルシェビキの指導のもとで国際共産党、いわゆる が結成されており、 の活動を通じて共産主義勢力を世界的に拡大することを目指していった。

満州事変以降、日本の軍事拡張政策がアメリカやイギリスから糾弾される中、日本は国際連盟から脱退するなど、国際的孤立を深めていった。しかし、軍需増大が経済を拡張させ、日本の重化学工業の発展をもたらし、新興財閥が台頭することになった。鮎川義介が設立した(B)【① 日産 ② 理研 ③ 日曹 ④ 森 ⑤ 浅野】コンツェルンや、野口遵が設立した日窒コンツェルンが新興財閥の代表例としてあげられる。1936年、広田弘毅内閣ではさらなる大陸や南方進出を促進するために、帝国国防方針を改定し、いわゆる「」を策定した。「」には南方資源の獲得のための「南進論」と満州国領土を拡張するため対ソ戦をも視野に入れた「北進論」の両拡張政策が併記されていた。共産主義の影響力増大は日本の「国体」を揺るがすものとして大きな脅威ととらえられた。軍事拡張主義を保持しながらソ連による共産主義勢力の拡大から守るという利害が日独間で一致し、日独防共協定が締結された。さらに、「ベルリン＝ローマ枢軸」のドイツ・イタリアのつながりから、防共協定にイタリアも加入することによ

り、1937年、日独伊防共協定が成立した。

この頃、日本は日中戦争を収拾できずにおり、満蒙国境地帯でソ連との間で緊張が増し遂には国境紛争を起こすこととなった。1939年におきた(C)【① 張鼓峰 ② 豆満江 ③ 東安鎮 ④ ルサン湖 ⑤ ノモンハン】事件では、当時、精鋭部隊とされた関東軍が機械化の進んだソ連軍に敗北したことで、陸軍や政府は大きな衝撃をうけた。このような事態の中で、(D)【① 近衛文麿 ② 宇垣一成 ③ 阿部信行 ④ 平沼騏一郎 ⑤ 米内光政】(1867～1952)内閣の閣内では日独伊防共協定を軍事同盟へと展開させようとする動きと、これに反対する動きが対立することになる。しかし、ドイツはソ連と独ソ不可侵条約を結び、東欧の分割を両国間で取り決め、相互の権益を承認するに至った。日本政府にとって、このことは青天の霹靂^{へきれき}であった。(D)内閣はこうした情勢に対処できず混乱し、(D)は「欧州情勢は複雑怪奇」という言葉を残して内閣総辞職した。

その直後、ドイツはポーランドへ侵攻し、イギリス、フランスはドイツに対して宣戦布告を行い第二次世界大戦が勃発した。1940年にはパリを占領するなどドイツの快進撃が続く中で日本国内ではドイツ礼賛論が高まり、アメリカとイギリスと対立をしてもドイツとの同盟関係を確固たるものにすれば、日本の利権は維持できるという楽観論が広まっていった。そして1940年には(E)【① 野村吉三郎 ② 有田八郎 ③ 畑俊六 ④ 松井石根 ⑤ 来栖三郎】(1886～1954)が駐独特命全権大使として日独伊三国軍事同盟に調印することになった。